

個別の配慮を必要とする子への支援(その5)

児童生徒の苦手な事へのアプローチとして、考えられる様々な学習方法を4回にわたり、紹介してきました。児童生徒一人一人苦手としている事が違うことから、どのような事に困っていて、どのような支援をする必要があるのかを把握し、学習方法を考えていくことが大切です。

この時期になると児童生徒の中には、来年度の事(新しい環境)に大きな不安を感じる子もいます。新しい学年や環境の場でも、これまで取り組んできた事を次年度に引き継げるような配慮も必要です。

一人一人が輝くための支援

☆事例Cさんについて

Cさんは、通常の学級に在籍している小学校4年生です。

学校生活では、とても積極的に活動しています。しかし、場所や状況に合わせた声の大きさを話をするのが苦手です。また、学習中に思いついたことがあると一方的に話をしたり、相手との距離が上手くとれずに自分の都合で相手の体を触って話をしたりすることが多くありました。自分がどのように相手と関わっているのかを振り返ることが苦手で、友だちとトラブルになってしまうことがありました。

このことから、「現状の理解」「相手の気持ちの理解」の学習、「理解した事を実行する練習」に取り組みました。

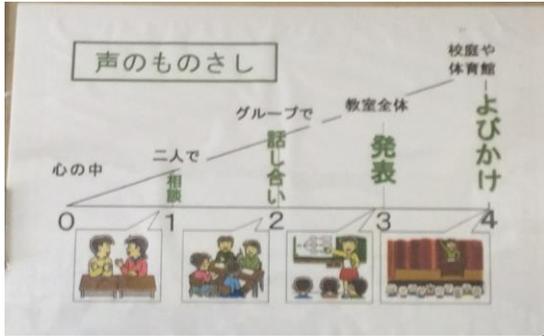


考えられることは?

- 状況を理解することが苦手。
- 自分自信の姿を振り返ることが苦手で、「正しい行動」と「誤った行動」の理解が困難。
- 相手のペースに合わせて、行動することが苦手。

取り組んだこと

☆望ましい社会的スキルを身につけることを目指しました。また、安心して学習に参加できるように少人数での指導に取り組みました。

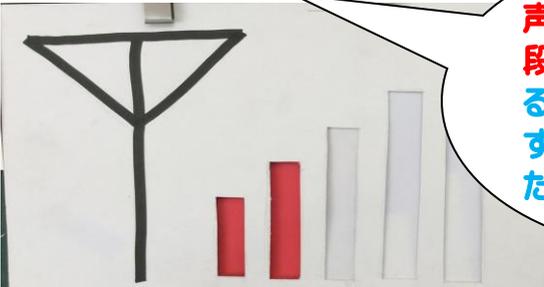


その1

- ①どの場で、どれくらいの声の大きさを話すことが適正なのかを確認します。
- ②C児の行動場面で、できるだけ即時評価を行いながら、その都度一緒に決めたルールを確認します。

Point

基準を決め、視覚的に提示！
C児だけではなく、学級全体でルール化します！



携帯電話のアンテナのように、声の大きさを示しました。

声の大きさを数字や普段目に見ている物にすることで、イメージしやすいように工夫しました。

その2-1

相手との距離を保つ基準を覚えます。自分の腕の長さ分離れ、相手との距離を保ちます。
慣れてきたら、相手の表情や話し言葉にも注目できるようにします。



- ①相手を前にして、自分の腕を前に伸ばします。
- ②どれくらいの距離なのかを確認します。

Point

初めは腕を前に伸ばして、相手との距離を覚えます。上手に距離を保ち、対応できている時には、そのことをすぐに評価します！

その2-2

自分が友達や教師と話している場面をビデオカメラで撮影します。その後映像で確認します。映像から良かった場面や改善点を話し合います。改善点については、どのようにすれば良かったのかを一緒に確認します。



僕の「○○○」と言った言葉に、相手は何だか困った顔をしたみたいだ！
何でかな？

Point

ビデオカメラは、何度も見直しができ、自分がどの様に相手と話しているのかが視覚的に確認できます！